

JSP0-AT養成校に認定

理学療法学専攻 PTとの併修 九州の大学では初

今年度より、本学理学療法学専攻はJSP0-AT（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）養成校として承認されました。同一専攻内にて4年間で理学療法士（PT）とJSP0-ATの受験資格が同時に得られる養成校としては、全国3番目、九州では初の大学となりました。

JSP0-ATは、各種トレーナー資格の中で日本最高峰に位置しており、プロチームや実業団、各種競技団体に属するトレーナーが有している資格の代表的なものとなります。

PTおよびJSP0-ATを併修して養成できる本学では、ケガや故障したスポーツ選手を医療現場でメディカルリハビリテーションとしてサポートし、その後のスポーツ現場でもアスレティックリハビリテーションとしてのサポートや競技力向上を目指したトレーニング指導など、幅広く対応できる優秀な人材を育成することが出来るようになりました。

本学では、PT専攻内のスポーツリハビリテーションコース20人の中から、希望する10人をJSP0-ATへと育成していきます(ATプログラム)。選抜された

学生たちは、JSP0-AT受験資格要件を満たすために、PT養成に必要な単位に追加して講義・演習14単位と現場実習4単位が必要となります。本学のATプログラムでは、即戦力となるトレーナー育成を目標として、積極的に現場実習を活用して質の高い実技指導から現場経験へと導いていきたいと考えています。（PT専攻長 久保下亮）



アスリートへのトレーニング風景

新たな仲間と心ひとつに 看護学科1年 恒例の綱引き

看護学科1年次生による「綱引き」が11日（金）、アリーナで行われました。「看護セミナー」授業の中のチームワーク演習の一環として行われている「恒例行事」です。

この日は、138人の学生が「デコポン」「トマト」など熊本県の名産品にちなんで名付けた8つのチームに分かれて熱戦を繰り広げました。理事長や学長から激励を受けた後、学生たちはチーム内で作戦（綱を引く際の掛け声の工夫や綱の引き方など）を練り、チーム一丸となって綱引きに臨みました。自分のチーム以外にも大きな声で応援するなど、学生たちは心と体を精いっぱい動かし、大いに盛り上がりました。

勝敗に関係なくチーム力の活動を通して得るものが多くあったようで、「新入生でお互いのことを知らない者同士であったが、『勝つ』というゴールを共有することで距離が縮まり、仲良くなった」「チームワークの大切さを学んだ」「意見を出し合い、共有することで仲間意識が芽生えた」などの感想が聞かれました。なお、参加した学生には、KMバイオロジクスなどから景品が贈られました。（看護学科講師 吉野拓未）



仲間とともに勝利を喜ぶ学生たち

KMバイオロジクスより明治の商品を提供していただきました



周囲の支援を受け懸命に綱を引く学生たち

成績優秀者21人を表彰



竹屋学長から表彰状と奨励金を受け取る
令和6年度の成績優秀者

令和6年度の成績優秀者表彰式が10日（木）、1300講義室で行われ、竹屋元裕学長が学部生21人に表彰状と奨励金を手渡しました。

表彰後、竹屋学長から「医療は日進月歩、日々の自己研鑽が必要。これからも学ぶことを習慣化させて、学生たちのお手本になってほしい」とエールが送られました。

被表彰者の内訳は次の通り。

◇医学検査学科6人（2年次生2人、3年次生2人、4年次生2人）◇看護学科6人（2年次生2人、3年次生2人、4年次生2人）◇リハビリテーション学科理学療法学専攻3人（2年次生1人、3年次生1人、4年次生1人）◇同作業療法学専攻3人（2年次生1人、3年次生1人、4年次生1人）◇同言語聴覚学専攻3人（2年次生1人、3年次生1人、4年次生1人）

西里小教諭と意見交換

ことばの相談室交流会

言語発達臨床教育研究室（ことばの相談室）による2025年度第1回交流会が4日（金）、3213実習室で開かれ、本学の教員5人と西里小学校の教員8人が意見交換などを行いました。

「ことばの相談室」では、大学近隣の西里小学校、五丁こども園、西里保育園と連携し、子どもたちの発達をサポートする取り組みを行っています。西里小学校との交流会は3年前から続いており、年度当初の交流会では、子どもたちへの支援が円滑に進められるように、「ことばの相談室」の役割や対象となる子どもの症状などについて説明しています。

今回は、本学教員が「ことばの相談室」を利用する子どもたちが抱えている課題や現状について報告しました。会終了後、小学校側の参加者は、検査に使用する実際のカードや道具を興味深そう

に手にしたり、意見を交換したりしていました。
（NL編集部）



交流会で相談室の取り組みについて説明を受ける西里小の教員たち

キャンパステラス発 松岡 詠子

スタートアップの3月

定期試験、追試、国試も終わった3月のキャンパステラス。学生は春休み。通常なら静寂が漂う時期。でも、今年は違った。

時折聞こえてくる笑い声や話し声。目を転じると、白い壁一面に広用紙が貼られていた。用紙には絵や文字がびっしりと描かれている。その用紙を前に、学生たちが声を張り上げ身振りを加え、声のトーンを変えながら、プレゼンテーションの練習をしていた。

少し離れたところからは、違ったざわめきが聞こえてきた。そこには、キャンパステラス全体を使って動画を撮影している学生たちの姿が。シチュエーションを変えながら何度も撮り直してい

る。さらに別室からは、「特集の見出しどうする？」「取材は？」といったやりとりの声が漏れていた。

毎日、朝から夕方まで、春休み返上で作業に没頭している学生たち。この学生たちは、キャンパステラスの一角にあるアカデミックスキル支援センターの学生広報スタッフと学生指導員たちだ。新入生に向けて、センターの紹介を分かりやすく伝えるときともに、学園生活への不安を少しでも軽くしてあげようとの思いから、動画や広報紙づくりを企画したのだという。

キャンパステラスの3月はスタートアップの季節でもある。

大学での学び方 優しくアドバイス

履修登録相談会

4月4日（金）、7日（月）、8日（火）の昼休みに、「ピア・サポーターによる履修登録相談会」を開催しました。

1年生からは履修登録の仕方や、授業、学校生活などへの質問がありました。ピア・サポーターとして、これからの授業の受け方や、定期試験対策、また、新生活へのアドバイスをを行いました。

これからの大学での勉強は、医療系の内容が多く、高校生の時とは異なる勉強になると思います。1年生で習うことの大半が重要な基礎となるため、しっかり予習復習を行いながらも、4年間しかない大学生活を楽しんで欲しいです！（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2年 駒井敬大）



1年生（手前）からの履修の相談に乗る
ピア・サポーター

銀杏アラカルト

■著作権について考える
令和6年度の第2回利益相反に関する研修会が3月27日（木）、Zoomオンラインで開催され、本学の顧問弁護士を務める馬場啓弁護士が「大学と著作権」と題して講演しました。馬場弁護士は、著作権を含む知的財産権について解

説した後、実際の裁判例と本学の規定を交えながら著作権の帰属が問題になるケースについて説明しました。事前に寄せられた「テレビやYouTubeなどで放送されたものを授業で使用してもいいか」という質問に対しては、「授業の範囲内であれば著作

権侵害には該当しないが注意点がある」とする一方で、問題集を1冊全て印刷したり、YouTubeの広告をカットするためにダウンロードして流したりすることは問題になるなどと説明しました。

（NL編集部）

インフォメーション

週間行事予定（4月21日～4月28日）

4/27（土）

西里校区グラウンドゴルフ大会